

特別調査「平成18年度の決算状況について」

(特別調査については、全地域調査依頼先600先からの有効回答のみを集計した調査結果となっています。)

ここでは、平成18年10月から平成19年9月までに期末を迎えた、もしくは期末を迎える決算を平成18年度の決算とさせていただきます。

問1

貴社の経営組織はどちらに属しますか。下記の1~2の中から1つ選んでお答え下さい。また、平成18年度の貴社の売上額の規模はおよそどの程度となった、もしくは、なる見通しですか。下記の3~0の中から1つ選んでお答え下さい。

(経営組織)

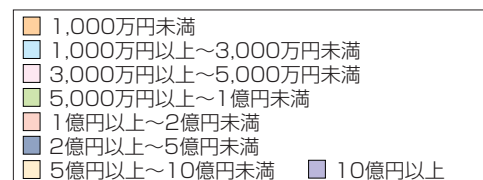
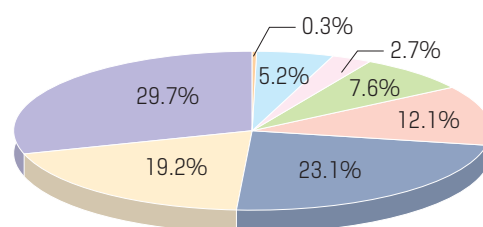
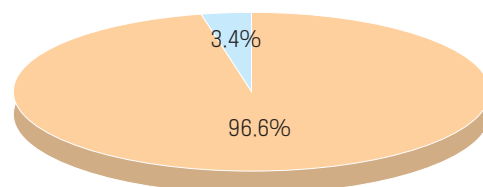
1. 法人(株式会社、有限会社、合名会社、合資会社など)
2. 個人事業主

(18年度の売上額規模)

3. 1,000万円未満
4. 1,000万円以上~3,000万円未満
5. 3,000万円以上~5,000万円未満
6. 5,000万円以上~1億円未満
7. 1億円以上~2億円未満
8. 2億円以上~5億円未満
9. 5億円以上~10億円未満
0. 10億円以上

当庫の調査先は、「法人が96.6%」と株式会社、有限会社等多数を占めております。

当庫調査先の18年度の売上規模として、1位「10億円以上が29.7%」、2位「2億円以上~5億円未満が23.1%」、3位「5億円以上~10億円未満が19.2%」、4位「1億円以上~2億円未満が12.1%」の回答順となっており、当庫調査先の約8割が売上1億円以上となっています。



問2

貴社の平成18年度決算の売上額は、平成17年度に比べおおよそどのようになった、もしくは、なると見込んでいますか。下記の1~3の中から1つ選んでお答え下さい。また、平成18年度の売上額の増減に、最も大きな影響を及ぼしている要因は、販売数量の増減と販売単価の上昇・下降のいずれですか。下記の4~8の中から1つ選んでお答え下さい。

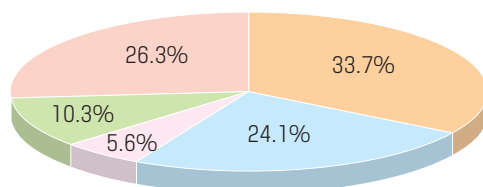
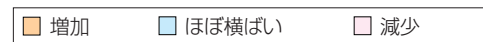
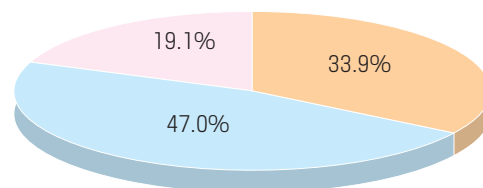
(売上額)

1. 増加
2. ほぼ横ばい
3. 減少

(売上額への影響)

4. 販売数量の増加
5. 販売数量の減少
6. 販売単価の上昇
7. 販売単価の下降
8. 販売数量・単価とも変化なし

当庫の調査先の平成17年度に比べ平成18年度の売上の見込みとしての回答は、「ほぼ横ばいが47.0%」、次いで「増加が33.9%」となっており、約3割が増加を見込んでおります。その要因として「販売数量の増加が33.7%」、「販売単価の上昇が5.6%」と、約4割の企業が数量、単価とも好転してきている結果となっております。



問3

貴社の平成18年度決算の粗利(売上総利益)、および当期利益は、平成17年度に比べておおよそどのようなようになった、もしくは、なると見込んでいますか。粗利(売上総利益)については下記の1~5の中から、当期利益については下記の6~0の中から、それぞれ1つ選んでお答えください。

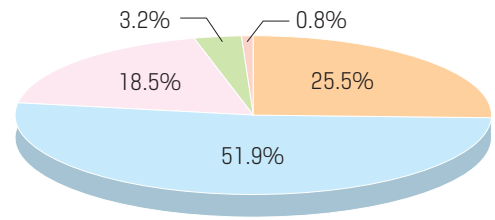
(粗利(売上総利益))

- 1. 増加
- 2. ほぼ横ばい
- 3. 減少
- 4. 赤字転換、赤字の継続
- 5. 分からない、把握していない

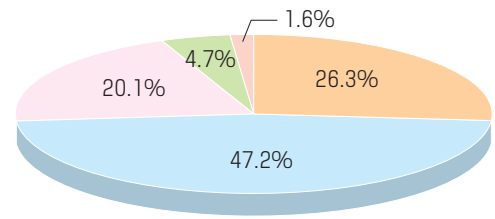
(当期利益)

- 6. 増加
- 7. ほぼ横ばい
- 8. 減少
- 9. 赤字転換、赤字の継続
- 0. 分からない、把握していない

当庫の調査先の平成17年度に比べ平成18年度の粗利(売上総利益)、当期利益の見込みとして、粗利(売上総利益)と当期利益とも「増加」が約3割、「減少」が約2割の企業が回答と、企業格差がでてきている結果となりました。



■ 増加
 ■ ほぼ横ばい
 ■ 減少
 ■ 赤字転換、赤字の継続
 ■ 分からない、把握していない



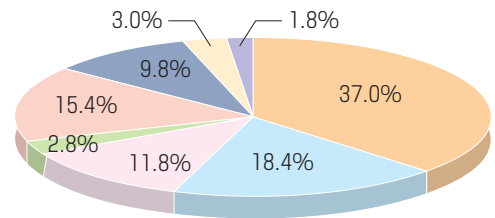
■ 増加
 ■ ほぼ横ばい
 ■ 減少
 ■ 赤字転換、赤字の継続
 ■ 分からない、把握していない

問4

貴社の平成18年度決算で利益面の増減に影響を及ぼしている要因は何ですか。特に大きいものを、下記の1~8の中から3つ以内で選んでお答え下さい。

- 1. 販売金額(単価×数量)の増減
- 2. 仕入金額(単価×数量)の増減
- 3. 人件費の増減
- 4. 減価償却費の増減
- 5. その他の経費の増減
- 6. 金融費用負担の増減
- 7. 臨時的要因(資産売却益、災害損失など)
- 8. その他()

利益面に影響を及ぼしている要因について、「販売金額の増減が37.0%」と最も多い回答で、次いで「仕入金額の増減が18.4%」となっており、約6割の企業が販売、仕入の単価、数量の動きの影響が大きい結果となりました。



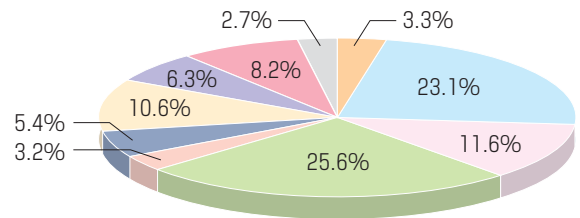
■ 販売金額の増減
 ■ 仕入金額の増減
 ■ 人件費の増減
 ■ 減価償却費の増減
 ■ その他の経費の増減
 ■ 金融費用負担の増減
 ■ 臨時的要因
 ■ その他

問5

今後の経営にとってのリスク要因として、どのようなものが考えられますか。特に大きなものを、下記の1~0の中から3つ以内で選んでお答え下さい。

- 1. 海外(米国・アジアなど)経済の減速
- 2. 需要の低迷・販売不振
- 3. 原油など原材料価格の高騰
- 4. 金利の上昇
- 5. 取引先企業の経営破たん
- 6. 後継者問題
- 7. 人材確保難・団塊世代の大量退職
- 8. 法律・制度(税制等)の改正
- 9. 地域の衰退
- 0. その他()

今後の経営リスクについて、「金利の上昇が25.6%」が最も多い回答で、次いで「需要の低迷、販売不振が23.1%」、「原油など原材料価格の高騰が11.6%」となっており、約3割の企業が金利上昇による金融費用負担増による収益圧迫を意識している結果となりました。



■ 海外(米国・アジアなど)経済の減速
 ■ 需要の低迷・販売不振
 ■ 原油など原材料価格の高騰
 ■ 金利の上昇
 ■ 取引先企業の経営破たん
 ■ 後継者問題
 ■ 人材確保難・団塊世代の大量退職
 ■ 法律・制度の改正
 ■ 地域の衰退
 ■ その他